

ヴォリュームアキュライザーの導入 (22)
-45pp アンプへの適用-

1. 始めに

今回は、JBL4350A の 250Hz から 12.5KHz の駆動を受け持つ芦屋ベルステレオオリジナル RCA 45pp アンプのヴォリュームに適用してみます。

2. ヴォリュームアキュライザーVRA-7 の試聴方法

JBL43050A の駆動はチャンネルデバイダーF-15 の後、次のアンプで駆動しています。

>12.5KHz Pilotone 6V6pp×2

12.5 KHz～250Hz 芦屋ベルステレオオリジナル 45pp

<250Hz Heath Kit W5M KT66pp×2

Pilotone 6V6pp と Heath Kit W5M にはヴォリュームがありませんが、45pp アンプには L/R 独立のヴォリュームがあります。この 2 個のヴォリュームに VRA-7 を貼りつけます。





JBL43050A の最近の状況は下記で報告しています。

[TruPhase の導入\(13\)](#)

[TruPhase の導入\(14\)](#)

[TruPhase の導入\(15\)](#)

音源は前報(2)で使用したアナログ盤を使用します。

Deutsche Grammophon 483-6927/6928/6929

J.S.Bach Sonatas & Partitas

Nathan Milstein

ドイツグラモフォン MG9551

ベートーヴェン 三つのピアノソナタ (選帝侯のソナタ)

ゲザ・アンダ (ピアノ)

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウーンフィル

Angel (東芝 EMI) AA 9117・C

ゲオルグ・フドリッヒ・ヘンデル メサイア

オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

3. ヴォリュームアキュライザーVRA-7 の試聴結果

ZANDEN Model 120 の設定はこれまでの経験を元に選定しています。

Sonatas & Partitas は、以下の3曲も含めた中で、もっともバランスよく、魅力的な音を聴かせてくれました。Milstein のヴァイオリンの少し切れ込みが強すぎるどころが、実に艶っぽい響きに変わりました。

選帝侯のソナタは、アンダのピアノの艶っぽい響きが目立ってきます。反面、左手の鍵盤の音は変わっていません。

ワルキューレでは、粗さが取れて、全般に音の分離がよくなります。

メサイアでは、合唱の分離がよくなり、シュワルツコップの声に張りが出て、弦の艶が出てきます。

以上は、主に 45pp アンプの駆動する 12.5 KHz~250Hz の印象ですが、選帝侯のソナタやワルキューレやメサイアなどでは、250Hz 以下のダブルウーファー領域には効果が及んでないので、若干バランスが崩れた感も無きにしもあらずという印象です。VRA-7を追加し、TruPhaseにも追加するなどして聴いてみる必要があります。

4. まとめ

JBL4350A の 12.5 KHz~250Hz を駆動する 45pp アンプのヴォリュームへの VRA-7 の適用は、この帯域のみをとれば大きな効果があったと言えます。全体域の効果が及ぶような適用が望まれます。

以上